


ディベート
クラブ
たま。 presents 

ひげねこ教授の 
「ディベート文章表現」入門



教授~!!



1、ディベートの文章って何で変なの？

1、ディベートの文章は独特？

教授！！この前、ディベートの原稿を書いてたら、友達に「何か変だね」って言われました。何ですか！？



いや。それをワシにいわれてもなあ。まあ、確かにディベートの文章は独特じゃな。これには理由がある！



2、ディベートの文章が独特な理由。



限られた時間の中のスピーチだから。

ディベートにおける文章表現は限られた時間の中でのものになります。そのため、ディベートにおける文章表現はいかに少ない言葉で的確な表現を出来るかという風になっていきます。



ジャッジに判定してもらうため。

ディベートはジャッジを説得する競技です。そのため、ジャッジにより伝わりやすい表現や言葉遣いが求められていきます。



フローシートを書いてもらうため。

ディベートでは聞き手にフローシート(メモ)を書き取ってもらわなければいけません。そのため、より書き取りやすいような工夫や表現が求められていきます。

2、ディベートの文章表現の基本。

教授！！文章を書く時、何に気をつければいいですか？



うむ。それじゃあ、説明していこうかのう！！
話す順番と技術的な話に分けて説明しよう。



1. 話をする順番。～マクロの視点から。



それでは、立論で考えるかろう。立論はプランを導入すると「こんな良いことがあるよ」という物語じゃ。そうした点から次の順番で話をするとうまいじゃろう。



1 定義・プラン。

言葉の定義やプランは、メリットやデメリットといった物語の前提となる部分です。なので、一番初めに話してあげるのが良いでしょう。



2 現状⇒プラン後⇒その差の順番（3要素）。

立論のメリットはプランを導入すると、「こんないいことがあるよ」という物語です。それがどれだけ良いことなのかを説明するには、まず、「現状の世界はこんな風に問題だ」という話をして、それと**対比させる形**で「プランを導入した後の世界はこんなことが起こっていく」という順番で話しましょう。そして、最後に、「現状とプラン後の世界の差ってこんなに大事なんですよ」と話してあげると良いです。要は一つの物語を語ってあげるような感覚で3つの部分に分けて文章を書いていくと良いでしょう。

2. 話をする順番。～ミクロの視点から。



さて、大きく3つに分けて話をすると言ったが、「大きく3つ」の話も、「こんな問題がある」等一つ一つの小さい話（議論）から話が成り立っているのじゃ！！
次は、小さい話をする順番について説明しよう！！

1) 主張（言いたいこと）。

その議論で**一番言いたいこと**を一番最初に言きましょう。これはなぜかと言うと、一番言いたいことは一番**伝えたいこと**だし、**一番初めに**いと**伝わりやすい**からです。

2) 根拠（「なぜなら～」という理由）。

次は主張（言いたいこと）の**理由（根拠）**を説明しましょう。なぜなら、根拠がないとただ言いたいことを言っている、日常生活での主張と同じになってしまい、どうしてそう主張しているのかわからないからです。必要に応じて、証拠資料を用います。

3) 論拠 (主張と根拠をつなげる説明)。

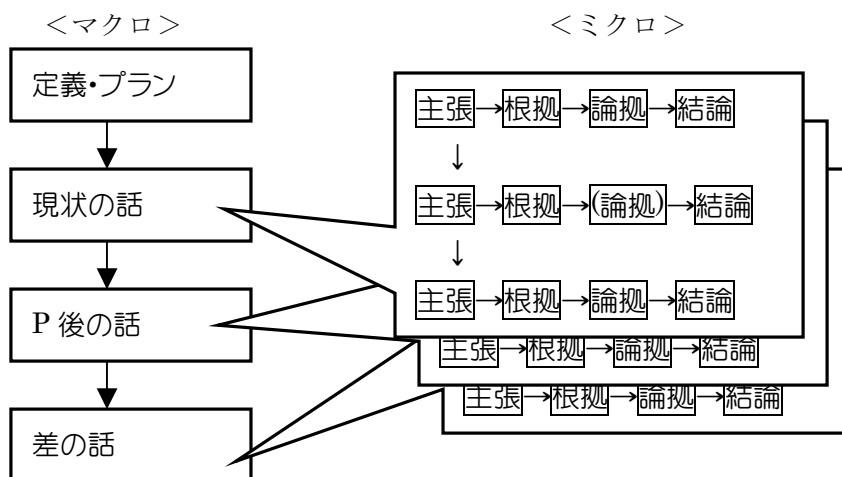
主張⇒根拠だけでは話が伝わりにくい場合があります。例えば、
「今日は停電する。なぜなら、電力使用量予測が 100%だったから。」
これだけでは、「？」と思う人もいるのではないのでしょうか？こうした文になった時は、
主張と根拠をつなげる言葉（論拠）を補って説明してあげましょう。
例文は次のようになります。

「今日は停電する。なぜなら、電力使用量予測が 100%だったから。100%超えたら電気が供給できないから停電してしまうためです。」

4) 結論 (「よって～」物語がどうなるのかを説明する)。

主張の結果、その議論がどう試合や物語に影響を及ぼすのかを言葉にします。
主張の結果、「現状はこんなに大変な問題がある。」とか「問題が解決していく。」といった
マクロの視点、言い換えれば、「この議論はこういう風に捉えてください」と聞いている人に
言ってあげる文です。

ここまでを図にすると次のような感じですかね？



うむ。まあ、こんな感じかのう。
大きな話は小さな話（議論）が集まってできているという
ことじゃな。

3、技術的な話。



次は技術的な話をしよう。これは耳で聞いたことをフローシートに書いてもらうためのテクニックじゃ！

1) なるべく短い文を使う。

文はなるべく短くしましょう。これは、「～ので、～」とか「～のため～で、～だから」といったように、文章が長くなれば長くなるほど、フローシートを書きづらくなってしまうためです。なので、「～.すると、～」や「～.だから～」という風に、**短い文で切って接続詞でつなげるという形**の表現が一番フローがとりやすいです。

2) ラベル (小見出し) をつける。

いくつかの文 (議論) で大きな話を説明するというのは前述したとおりです。その**節目節目が分かりづらくなることを防ぐために**、ラベル (小見出し) をつけると、「ここは〇〇の話なんだな」と聞いている側は分かりやすくなります。なので、内容を端的に10文字程度でラベルにすると良いでしょう。

3) 番号を振る。

一つの大きな話をする時に、何個も小さな話 (議論) をする必要がある場合があります。その**一つ一つをしっかりと書き取ってもらうために番号を振ると良いです**。番号を振ることで、後のスピーチでも「現状の2点目で～」という風に、話を追っていきやすくなったりもします。また、現状とプラン後の番号を対応させることで、**対比**がわかりやすくなります。

4) 予告する。

「これから～について話します。」や「現状分析は〇点あります。」というように、**これから話す内容や構成を予告することで、聞く側の心構えができるので**、節目節目では予告の文をいれましょう。

3、証拠資料引用の基本。

教授！！資料を引用する時のコツは何ですか？



一言で言うなら、その資料で何を伝えたいかを明確にすることじゃ。以下、基本も交え説明しよう。

1) 出典を明示する。

証拠資料がちゃんとしたものですよ、という信憑性を持たせる意味で、出典を述べましょう。著者の肩書き、著者名、本の名前、年数などは最低限引用するとよいでしょう。

2) 引用部分を明示する。

自分たちが話しているのと区別するために資料の引用部分を明確にしましょう。

「引用開始」「はじめ」等で引用を始めて、「引用終了」「終わり」等で引用を終わらしましょう。

3) 引用前の主張は資料中の単語を使う。

根拠である資料を引用する前の主張では、なるべく資料中と同じ単語を使いましょう。そうすることで、ジャッジが、資料の中でフローを書き取るポイントが明確になります。また、資料が主張をサポートしていることがより伝わりやすくなるという利点もあります。

4) 主張と資料の乖離を補足（前提を説明）する。

これは、実例を用いて説明したいと思います。

主張：選挙の棄権に罰則を設けると投票率が 90%になる。

根拠：資料。「HP Wonderful Australia」より引用開始

「オーストラリアでは、選挙は国民の義務とされている。そのためその義務を果たさなかった場合は罰金が課せられることになる。NSW 州選挙の場合、罰金は 25 ドルである。連邦選挙の場合は、何故か安く 20 ドルである。このように罰金が課せられ義務であるため、オーストラリアの選挙での投票率は 90%を超えている。」引用終了。

↑の主張・根拠には次のような前提が隠されています。

前提：オーストラリアの事例は日本に当てはまる。

これを説明することができれば、この主張はより説得力を増します。

証拠資料を引用する前、もしくは引用した後にこうした前提を説明してあげることで、よりジャッジに伝わる主張ができます。

4、質疑の表現の基本。



教授！！質疑では何かコツはありますか？



質疑は次の3つのポイントを抑えるのじゃ！

1) 注目

「～を見てください。」とどこに対する質問をするのかという場所を明示しましょう。この一言があるだけでジャッジは話を追いやすくなります。

2) 引用

「～とっていましたが、」と相手の言葉や番号をもう一度言ってあげましょう。これで、どこに聞いているのかが完璧に分かります。

3) 質問

1) 2) のステップを経てから質問をしましょう。この時、相手が答えやすいように「～ということですか？」「～という認識でよろしいですか？」など Yes か No で答えられる質問の仕方をするとうまく質問できるので良いです。

5、反駁の表現の基本。



教授！！反駁ではどうですか？



うむ。じゃあ説明しようかのう。

1) 注目 (サインポストイング)

質疑と同様、「～を見てください。」とどこに対する反駁をするのかという場所を

明示しましょう。この一言があるだけでジャッジは話を追いやすくなります。

2) 反駁の四拍子

反駁の分かりやすい表現として心がけるポイントに「反駁の四拍子」というものがあります。以下、説明していきます。

☆引用～「～と言っていましたか、」

相手の言葉を引用することで、どこに反駁するのかを明示します。これで、ほぼジャッジはどこに対する反駁かが分かります。

☆主張～「それは違います。/～です。」

言いたいことをスパンといいます。最初に言いたいことを言うことでジャッジに何が言いたいのか伝わりやすくなります。

☆根拠～「なぜなら～からです。」

主張の理由を示します。これを丁寧に伝えることで、ジャッジを説得できます。

☆結論～「よって～です。」

反駁の結果、相手の議論がどうなったのか、反駁をどう評価して欲しいのかを言葉にして表現します。

以上の4つを抑えてスピーチすることで、ジャッジに伝わりやすいスピーチができます。

3) 番号を振る (ナンバリング)

同じ箇所に複数反駁することがある時は、**主張の数**だけ番号をふって、「1点目。」「2点目。」「3点目。」という風に反駁をしましょう。こうして番号を振ることで一つ一つの反論をジャッジがしっかりと評価してくれます。

聞き手の事を
考えるのが
大事なんだな～



ディベート
クラブ
「たま。」

東京都 国分寺市 を中心に、「多摩地域」の社会人、学生を中心に
毎月1回 第4日曜を 基本的に 活動中！！

ディベートクラブ「たま。」ブログ
http://blog.livedoor.jp/kunitachi_debate/



© Kenji Takeda 2011, All rights reserved